

## 「第7回ミニ相談会」のお知らせ

第7回ミニ相談会を実施します！当センターでは、放射能測定の他に「震災記録の保存事業」にも取り組んでおります。今回は、これまでと少し相談会の形式を変えまして、皆様のお話を聞かせていただくことをメインとした会にさせていただければと思います。

東日本大震災での体験談、復興への思いなどをぜひお聞かせ下さい。皆様の貴重な声を後世に残すお手伝いをしていきたいと思っています。

- 【日時】 平成24年12月21日(金) 10:30～11:45  
【場所】 いわき地域復興センター  
〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾 74-8  
アドレスいわき中央ビル 1F  
TEL 38-7132 FAX 38-7134
- 【内容】 1. 講師のお話 10:30～10:45  
2. 交流タイム 10:45～11:45  
\*講師からいくつか皆様に質問させていただきます。  
皆様の体験談などをお聞かせ下さい。
- 【参加費】 無料  
【対象者】 いわき市内在住の方  
【定員】 10名(定員になり次第締め切ります)

※みなさまの震災体験を記録として保存するため、当日のお話を映像記録残す場合がございます。後世にも震災記録を伝えるために、ご理解とご協力をお願いいたします。

### 【第7回ミニ相談会テーマ】

「後世に残すべきいわきの震災記録について

～わたしたちができること～

講師:いわき明星大学 復興事業センター 川副 早央里

～お申し込み方法～

いわき地域復興センター窓口か、お電話(38-7132)でお申込み下さい。

\*定員になり次第締め切らせていただきますので、ご了承下さい。

今後も、様々なテーマで相談会を実施する予定です。

いわき地域復興センターホームページでも、お知らせいたしますので、ぜひご覧下さい。

↳ URL:<http://revive-iwaki.net/>

# 第7回ミニ相談会 開催報告

- 【日時】 平成24年12月21日（金） 10:30～12:00  
【場所】 いわき地域復興センター  
【講師】 いわき明星大学 復興事業センター調査研究員 川副 早央里  
【参加人数】 5名（男性3名 女性2名）

当センターでは、放射能測定の外に「震災記録の保存事業」にも取り組んでおります。今回のミニ相談会ではこれまでと形式を変えまして、皆様のお話を聞かせていただくことをメインに次のテーマで会を実施致しました。

## 「後世に残すべきいわきの震災記録について

### ～わたしたちができること～

参加された方からは、東日本大震災での体験談、復興への思いなど貴重なお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。

## 1. 講師の先生のお話


- 【1】復興事業センターの震災記録の保存事業
- 【2】これまでの震災では…
  - ①阪神淡路大震災
  - ②中越大震災
- 【3】東日本大震災の場合
- 【4】いわき市の場合



講師：川副 早央里

集めているものは？

- ▶ 紙資料
  - 自治体、ボランティア団体、NPOなどが作成・発行したビラ、チラシ、ノート、メモなど、震災の様子が記録された紙による資料
- ▶ 映像資料
  - 被災当時の浜通り各地の写真ならびに動画
  - 携帯電話やデジタルカメラなどでみなさんが震災時に撮影された映像資料
- ▶ 証言記録
  - 被災当時ならびにその後の避難生活の様子について、調査員が伺い、証言を記録



## 2. 交流タイム

### 【1】自己紹介

参加された方1人1人に自己紹介をしていただきました。

### 【2】意見交換

講師からの質問に対し、震災での体験談などを自由に話したり、意見を述べたりしていただきました。

### －震災当日 どこでどのような体験をしましたか？－

#### ●Aさん（男性）

地震が起きた時は家の中にいた。すごい揺れが始まったと思い、家のあちこちの窓を開けて、スリッパを履いて外へ飛び出した。電線が地面につきそうなくらい大きく揺れているのを見てた事ではないと感じた。外へ出てからはずっと植木につかまって揺れが収まるのを待っていたが、その後のことはあまりよく覚えていない。

講師：周りの状況などはどうでしたか？

Aさん：周りのことまで確認する余裕がなかった。

講師：その後水や食料はどうでしたか？

Aさん：水は止まりました。あるもので対処した。お風呂がエコキュートでその水を使えると聞いたが、使い方が分からず結局使うことができなかった。毎日3～4時間は並んで水をもらっていた。学校のプールの水をもらったりしていたが、今思えばすごく放射能の（濃度が）高い水を毎日汲みに行っていたのかなと思う。

講師：その時放射能のことはどのような意識を持っていましたか？

Aさん：どの方向に放射能（放射性物質）が飛んだのかなと思っていたが、情報がなくて全然分からなかった。

#### ●Bさん（男性）

地震が起きた時は自分の住んでいる団地内をウォーキングしていた。揺れがひどく立っていられなくなり、その場にしゃがみこんで揺れがおさまるのを待っていたが、目の前の道路に一気にひびが入り大変恐怖を感じた。（周りの家の）駐車場に止まっていた車が揺れでどんどん道路に出てきてしまっていた。揺れがおさまってから自宅へ戻ろうとしたが、恐怖で震えが止まらずうまく歩くことができなかった。

震災当日は団地のタンクに水がたまっていたので水道水は出たが、次の日から出なくなった。

後日、布団とあるだけの食料をもって柏にいる息子の所へ避難した。あの時は柏の放射線量があんなに高いとは知らずに。息子の家は狭かったので、近くにレオパレス（マンスリーマンション）を借りて1か月いました。

講師：いわきに戻って来ようと思ったきっかけは何ですか？

Bさん：水が出るようになり、ガソリンも入れられるようになったと聞いたからです。しかし、戻ってきた日がちょうど4月11日でした。出発してすぐ地震があった。それでもいわきに戻ってきたが勿来あたりはひどい状態だった。今でも余震があると恐怖を感じる。

●Cさん（男性）

自宅は津波の心配はなかった。地震が来た時1人で家の中にいた。ガタガタゆれて屋根のぐしが壊れて落ちてくる音がどんどん聞こえてきた。大変なことになったと思いながらも何もせず揺れが収まるのを待った。

その後は水が出ないのが1番困った。近くに堀があるので毎日バケツで汲んでお風呂にためたりしていた。市で水の配給が始まってから、最初のころは若葉台から泉の浄水場まで水を汲みに通った。

●Dさん（女性）

震災の起こる前日に面白いことがあった。土の中からアマガエルが出てきて、何回戻しても出てきてしまった。仕方がないのでビンに土や濡れたティッシュを入れ、その中にカエルを入れておいたがそれもいつの間にかいなくなってしまった。カエルは地震が来ることを分かっていたのかもしれないと、今になっては思う。

震災の翌日の朝7時に、逃げるようにと家のすぐ近くの広報無線から指示があった。最初は三春町の廃校になった小学校へ2日間避難した。その後、兵庫の親戚の具合が悪くなり急きょ高速道路（上越）を使って兵庫へ向かった。その際、燕三条のビジネスホテルに泊まろうと思ったが、「放射能の検査をしてきてくれ。泊められない」と5~6件は断られた。そんな中で1件のホテルは「そんなこと構わないから泊まって下さい。いいですよ」と泊めてくれ、とてもありがたかった。また移動の途中でトイレを借りるために立ち寄った焼きそば店で、快くトイレを貸してくれ焼きそばまで持たせてくれたのはとっても嬉しかった。逃げるのに精いっぱいでお店の名前などは覚えずに来てしまったが、いつか探して行ってみたいと家族と話している。

その後しばらくは横浜の息子と娘の家に避難していた。避難先では水や食事の心配はなかったが、買い物に行くと、「あの人に近づくと放射能がうつる」「歩くと放射能をばらまいている」などと言われることがあった。そういうことをあからさまに言われるのが嫌だった。

Aさん：どうして避難してきた人だと（横浜の人たちは）気付いたの？

Dさん：言葉づかいとか服装とかでわかるんですよ。

●Eさん（女性）

その日はたまたま水戸の西山荘へ出かけていた。お堀の前にいたのだが、地震の2~30秒前に鳥が一斉に飛んでいったので何だろう、と主人と話していたら揺れが来た。

目の前の藤棚が落ちてきてお堀が崩れていくのが見えた。売店の店員に誘導されて駐車場に避

難し、揺れがおさまるのを待った。携帯電話が繋がらなかったので、車のラジオを聞いて状況を把握しようとしていた。10mの津波が来るということで、いわきへは海側の6号線は使わずに、山側の道路を使って帰ることにした。しかし、山側の道も民家の壁(ブロック)が崩れたりして一方通行になってしまっているところが多く、また信号も点灯していなかったので大変だった。信号が止まっていたが、警察は大きな交差点に所々いる程度だった。

### —他の方の話を聞いてみてどうでしたか?—

#### ●Cさん

・放射能のことにはまったく無知だったと思う。(原発事故が起きた時)どの方向に放射能が飛んだのか、どのくらいの強さ(の放射能)だったのか全部後になって知った。東京電力だけでなく行政なども、何が危険なのかを市民にもっと知らせてほしかったと思う。

Aさん:地震後20日ほどしてから合同庁舎で(空間線量の)測定をしていると分かったので、色々聞きに行った。「原発事故の後、20 $\mu$ Sv/hあったというけどそれは高い数値なのか低い値なのか」と聞いたが「私たちは測定しているだけだから分からない」という返事だった。県の職員ですらそのような状況で、余計なことは言わないという姿勢を感じた。南相馬市は市長が積極的にアピールした結果、今は定期的に専門家が入って調査をしていると聞いている。いわきにももっと専門家の人が入って、いわきの現状を正確に教えてほしい。

Eさん:こっちは人は大丈夫と言うし、こっちは人は危険だと言うし結局自己判断なんですよ。うね。

#### ●Dさん

・わたしは横浜に娘がいますが、高速道路のパーキングやサービスエリアのゴミ箱には、いわきのお土産が箱ごと捨ててあると言っていた。もらうときは「ありがとう」と言ってもらってくるのだろうけど、いわきの水は汚染されているからそれで作ったお菓子は持って帰れないということなのでしょう。

### —後世に何を伝えたいですか?—

#### ●Dさん

半分は(震災のことを)忘れたいという気持ちがある。思い出すと眠れなくなる。親戚が阪神淡路大震災を経験していて、地震があったらお金と通帳とカードは持って逃げろと言われていた。あの時現金がないというのもとてもひどかったと聞いている。

Aさん:わたしも現金である程度もっていないと不安になります。いつお金がおろせなくなるか分からないので。

#### ●Cさん

(放射能や原発の危険性や対策を)分からないということが問題の1つだったと思う。だから、

放射能のことや震災のことについて、(特に原発のある地域では) 学校などできちんと教育してほしいと思う。

●Bさん

テレビで前に見たのだが、これからも(別の地域でも) 震災が起こる可能性はあるのに何も対策をしていないという人が多いということだった。それはどうなのだろうと思った。

講師：当事者意識がなかなか生まれていないということだと思います。そのような人たちに経験された方が(経験したことを) どう伝えていくかということを考えないといけないですね。

●Eさん

小さいころに教えられたことというのは50、60歳になっても覚えているので、中学・高校ではなくもっと小さい子への教育というのが大事だと思う。

●Bさん

先ほど、地震が来た時に窓を開けたという話がAさんからありました。僕は地震が来たら窓を開けて、それから安全を確認して外へ出ると小さい時から教えられてきた。だから、いざという時そうしたのだと思います。

今の子どもたちがそういうことを知っているのか、自分の息子が孫にきちんと伝えているのか分からないですね。

●講師

生活のしくみの中の1つとして防災対策というのが備えられているから、とっさの時に動けるというのはありますね。

地震を防ぐことはできないかもしれませんが、その後の行動はいかようにも準備できますし、人の動き方によって災害の展開の仕方も全く変わってきます。ですから、皆さんの経験を活かす形で後世に伝えていきたいと思っています。



以上

～参加されたみなさま、ありがとうございました～

第8回ミニ相談会は平成25年1月30日(水)10:30～実施します!!

興味を持たれた方は、窓口かお電話でお問い合わせください。